

1 学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

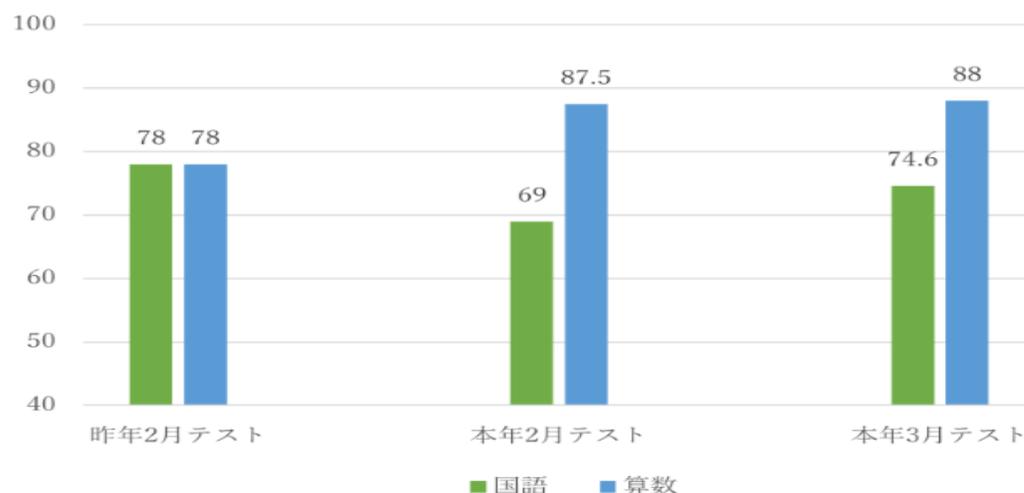
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者・地域との協働で子どもを育てる活気のある学校 ○常に目標を明確に示し、児童の頭と心と体のバランスの良い発達を目指す学校 ○児童一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを感じることでできる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に根差し、互いの良さや違いを認め合い、助け合える子ども ○基礎的・基本的な学習内容と生活習慣を身につけ、進んで学習する子ども ○常に目標をもって、健康の増進や体力の向上に努める子ども
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○常に自己研鑽に努め、指導力や授業力の向上に努める教師 ○深い児童理解と教育愛に満ち、児童・保護者・地域に信頼される教師 ○組織的に協働し、教育効果を高める職務行動意識の高い教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

2月校内学力事前調査終了後に記入(下記朱書きの内容はR5学校経営計画の内容)

校内テストの昨年度比較(通過率)



2月度区学力調査校内実施の結果は、全体 78.25%(前年比+0.25) : 国語 69(-9.4)、算数 87.5(+9.8)の通過率で、昨年度比で2教科全体としては0.25の微増ではあるものの特に算数科では大きな飛躍が見られた。これは、毎週4回(30分)程度継続実施した放課後の「桜花タイム」で、全員理解するまで徹底した起訴内容定着を図った効果が現れたと実感している。また国語については大幅な減少となったが、本年度3年生以上に週あたり1時間増の特設時間を設け、全学年の算数科単元の終了を早めさせることができたことにより、2月8日後以降の本来算数科授業週あたり5時間を当該学年の国語及び算数科の振り返りと理解定着に充てることができた。まだ2月テスト時期では校内学力向上策の成果が発揮できていないことから3月11日に別年度の区学力テストの校内実施を行ったところ下記のように74.6(昨年度-3.4)まで国語も通過率を伸ばすことができています。算数は微増であるものの、年度末に全学年が振り返りにより学力定着を十分に設定したことによる十分な効果を確認することができた。

時期は1か月程度遅れたものの昨年度2月テストと比較すると2教科全体で81.3%通過率となり、本校としては初めて4月テスト前に通過率80%算数は微増であるものの、年度末に全学年が振り返りにより学力定着を十分に設定した一定の効果を確認することができた。これにより、時期は1か月程度遅れたものの昨年度2月テストと比較すると2教科全体で81.3%通過率となり、本校としては初めて4月テスト前に通過率80%を超える学力定着を確認することができた。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	思いやりと自分が大切にされている実感ある学級・学年づくり（学級・学年経営）	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○
4	小中連携	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A	今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
基礎的基本的な学習内容の定着		令和6年度区学力調査目標値の通過率 80%	2月校内学力事前調査終了後に記入						
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	算数科 習熟度別 少人数授業の改善	算数	毎日の 授業	【指導者体制】 担任＋習熟度別担当教諭 【取組みのねらい】 習熟度別少人数担当主幹 教諭と管理職・学年チーム で4月テスト結果分析を 元に各学年の年間達成目 標値を決め、習熟度別担当 指導者を決定する。 ○指導者が担当グループ 児童の理解に責任を持つ。	◇各単元末評 価テストのグ ループ別集団 平均点の3期 に分け前2期 (てんまる学年 集計単元別学 習状況一覧表) による点検： 校長 確認日 ・7/20・12/20	◇単元評価テス ト全学年の通年 平均点 80 点以 上			

2 継続	放課後学習による学習内容の定着	算数	4回/週 月・火・木・金の放課後 3:00-3:30の30分間	【指導体制】学年＋副担任 【ねらい・目的】 ○低学年：担任教諭 ○3～6学年 AIドリル等や学習プリントにより所属学級で担任と各学年担当の専科教諭等の支援により進行中の国語科・算数科の単元について基礎的基本的内容の確実な定着を行う。	各単元末評価テストの学年全体の正答率(得点)の推移	◆各学年算数科単元末評価テスト平均正答率8割の達成児童が達成 ◆2月実施の昨年度学力テスト校内調査で各学年習熟度グループ別校内目標値の達成(当初申告時に校長提案・教員調整により決定)			○
廃止	1時間/週の特設時間の追加(算数科)	算数	毎週の 低: 火 5校時 中・高: 木 7校時	【指導体制】1～6学年 【ねらい・目的】 算数科の「わからない・できない」を1人残らずすくいあげる 算数授業の実質2割増 ※時間割としては左記時間に算数科は設定しない	各単元末評価テストの学年全体の正答率(得点)の推移	◆各学年算数科単元末評価テストの正答率推移 ◆2月実施の昨年度学力テスト校内調査			◎
4 継続	家庭学習定着への取組	各教科 30分＋学年×10分 間以上	年2回 7月、 12月	【取り組みのねらい】 家庭学習習慣の9割定着 家庭学習提出率向上のための保護者の意識醸成 保護者チェックカードの配布	家庭学習の提出率各学級達成度の確認	全学級家庭学習の提出率9割以上			×

5 継続	授業規律 習慣化への取組	全学級 全員	年2回 7月、 12月	【取り組みのねらい・目的】 望ましい授業規律を習慣化するために、授業規律カードにてチェックを行う。	管理職による 学級観察	2回の 全学級の規律 定着(管理職による点検)			
---------	-----------------	-----------	-------------------	--	----------------	-------------------------------	--	--	--

重点的な取組事項－2

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○思いやりある児童の育成 ○自分が大切にされていると実感できる環境設定	○生活指導部・特活部における全校的な取り組みの計画と実施 ○各学年での取り組み			

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「ほかほか言葉」でいっぱい の学校	学校評価児童アンケートの項目「楽しく仲良く学校生活を送っている」及び「自己肯定感」に関わることの達成 90 パーセント以上	○各学級教室での「友達のいいところ」「友達にありがとう」の掲示			
桜花小 年間読書奨励賞	区学力意識調査「1月に2冊以上本を読む」80%以上へのUP	校長・各学級担任による通年奨励 足立区立図書館作成の「あだち読書通帳」(50冊記録帳)を終了した児童称賛する機会の設定と紹介 1・2・3年(2冊)・4年以上(1冊:検討中)以上の読書通帳終了			

重点的な取組事項－3					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成		○都運動能力調査で一昨年の学年平均スコアを全学年向上させる。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
年間を通した体力向上の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育授業等様々な運動を計画的に行う機会の設定。 ・ 自己の記録履歴や学習カードを活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動月間の設定。 ・ 体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を整理し、指導に役立てるとともに家庭や地域とも連携した取組の推進。運動月間ごとに学校記録の更新の機会を設定する 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）